

## A.2 追加性に関する情報

投資回収年

③投資回収年数(=①÷②)	86.7
---------------	------

年

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
$ER$	排出削減量	tCO2/年	60
$EM_{BL}$	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	82.3
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	21.8

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、算定しない

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 付随的な排出活動である「バイオマス固形燃料化処理設備の使用」「バイオマス固形燃料の運搬」については影響度(モニタリング量(バイオマス固形燃料使用量)とデフォルト値を用いた算定)による算定を行う。「バイオマス原料の運搬」「対象設備に付帯する追加設備の使用」については算定を省略する。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	1.5	2.4	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量进行评估する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料化処理設備の使用	16.1	26.8	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量进行评估する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオマス固形燃料の運搬	1.3	2.2	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量进行评估する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
対象設備に付帯する追加設備の使用	3.0	4.9	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量进行评估する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	21.8	36.4	

- ※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
- ※2 A. 3. 1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
- ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
- ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1 バイオマス固形燃料（木質ペレット）を活用するため、プロジェクト実施後の主要排出量は 0 tCO2/年である。

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport,feedstock} + EM_{PJ,S,process} + EM_{PJ,S,transport,biosolid} + EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	21.8
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	1.5
$EM_{PJ,S,process}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	16.1
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	1.3
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	3.0

$$EM_{PJ,S,transport,feedstock} = F_{PJ,transport,feedstock} \times HV_{PJ,transport,feedstock} \times CEF_{PJ,transport,feedstock} \quad (式5)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,feedstock}$	バイオマス原料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	1.5
$F_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬における燃料使用量	kL/年	0.6
$HV_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	37.9
$CEF_{PJ,transport,feedstock}$	プロジェクト実施後のバイオマス原料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,S,process} = F_{PJ,process} \times \frac{PV_{PJ}}{PV_{PJ,all}} \times HV_{PJ,process} \times CEF_{PJ,process} + EL_{PJ,process} \times \frac{PV_{PJ}}{PV_{PJ,all}} \times CEF_{electricity,t} \quad (式6)$$

$$EM_{PJ,S,process} = BU_{PJ,fuel} \times PV_{PJ} \times HV_{PJ,process} \times CEF_{PJ,process} + BU_{PJ,electricity} \times PV_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (式7)$$

記号	定義	単位	想定値

$EM_{PJ,S,process}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	16.1
$BU_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理における燃料使用原単位	kL/t	0.00343
$HV_{PJ,process}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理に使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	36.7
$CEF_{PJ,process}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理に使用する燃料のCO2 排出係数	tCO2/GJ	0.0678
$BU_{PJ,electricity}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理における電力使用原単位	kWh/t	347
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2 排出係数	tCO2/kWh	0.00057
$PV_{PJ}$	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	78

$$EM_{PJ,S,transport,biosolid} = F_{PJ,transport,biosolid} \times HV_{PJ,transport,biosolid} \times CEF_{PJ,transport,biosolid} \quad (式8)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,transport,biosolid}$	バイオマス固形燃料の運搬によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	1.3
$F_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬における燃料使用量	kL/年	0.5
$HV_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	37.9
$CEF_{PJ,transport,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の運搬に使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2 排出係数	tCO2/GJ	0.0686

$$EM_{PJ,auxiliary} = PV_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,auxiliary} \quad (式9)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	3.0
$EL_{PJ,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	5,198
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2 排出係数	tCO2/kWh	0.00057

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後に投入される熱量を、バイオマス固形燃料ではなく、LPGから得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat,output} = Q_{PJ,heat,output} = F_{PJ,biosolid} \times HV_{PJ,biosolid} \times \epsilon_{PJ} / 100 \quad (式11)$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備における生成熱量	GJ/年	1,167
$Q_{PJ,heat,output}$	プロジェクト実施後の対象設備における生成熱量	GJ/年	1,167
$F_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料使用量	t/年	78
$HV_{PJ,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量	GJ/t	17.5
$\epsilon_{PJ}$	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率	%	85.5

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL,M} = Q_{BL,heat,output} \times 100 / \epsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (式15)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	82.3
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備による生成熱量	GJ/年	1,167
$\epsilon_{BL}$	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率	%	90.5
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0638

(2) 付随的な排出活動

注)A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式 )

記号	定義	単位	想定値

## A.4.1 モニタリング計画

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
BU <sub>PJ,fuel</sub>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料処理における燃料使用原単位	kL/t	A	木質ペレット製造工場の灯油請求書	月	0.00343	2014年7月～2015年6月実績	
BU <sub>PJ,elec</sub> tricity	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料処理における電力使用原単位	kWh/t	A	木質ペレット製造工場の電力請求書	月	347	2014年7月～2015年6月実績	
PV <sub>PJ</sub>	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t/年	A	木質ペレット供給会社の請求書	月	78	2014年7月～2015年6月実績	
EL <sub>PJ,auxi</sub> liary	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量	kWh/年	C	事務員が給湯のみの稼働期間を記録、施設の入浴時間の規定を確認（注）暖房期間（給湯のみで稼働していない期間）は毎日24時間稼働とする	月	5,198	2014年7月～2015年6月実績	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。



(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
HV <sub>PJ,process</sub>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料処理に使用する燃料の単位発熱量	GJ/kL	Ⅲ	デフォルト値（灯油）	年	36.7	デフォルト値	
CEF <sub>PJ,process</sub>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料処理に使用する燃料のCO2 排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値（灯油）	年	0.0678	デフォルト値	
CEF <sub>electricity</sub>	電力のCO2 排出係数	tCO2/kWh	Ⅲ	デフォルト値	年	0.00057	デフォルト値	
HV <sub>PJ,biosolid</sub>	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料の単位発熱量	GJ/t	Ⅱ	津軽ペレット協同組合の木質ペレット試験分析報告書	年	17.5	分析値	低位発熱量基準
ε <sub>PJ</sub>	プロジェクト実施後の対象設備のエネルギー消費効率	%	Ⅱ	二光エンジニアリングのカタログ値	年	85.5	カタログ値	低位発熱量基準
ε <sub>BL</sub>	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率	%	Ⅱ	ヒラカワ、日本サーモエナー、巴ボイラのカatalog値（3社平均）	年	90.5	カタログ値	低位発熱量基準
CEF <sub>BL,fuel</sub>	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値（LPG）	年	0.0638	デフォルト値	低位発熱量基準

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。  
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

## A. 4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A. 4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

### （1）計量器の概要

#### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限
プロジェクト実施後における製造されたすべてのバイオマス固形燃料の重量	質量計	木質ペレット製造工場内	2年に1回の定期検査

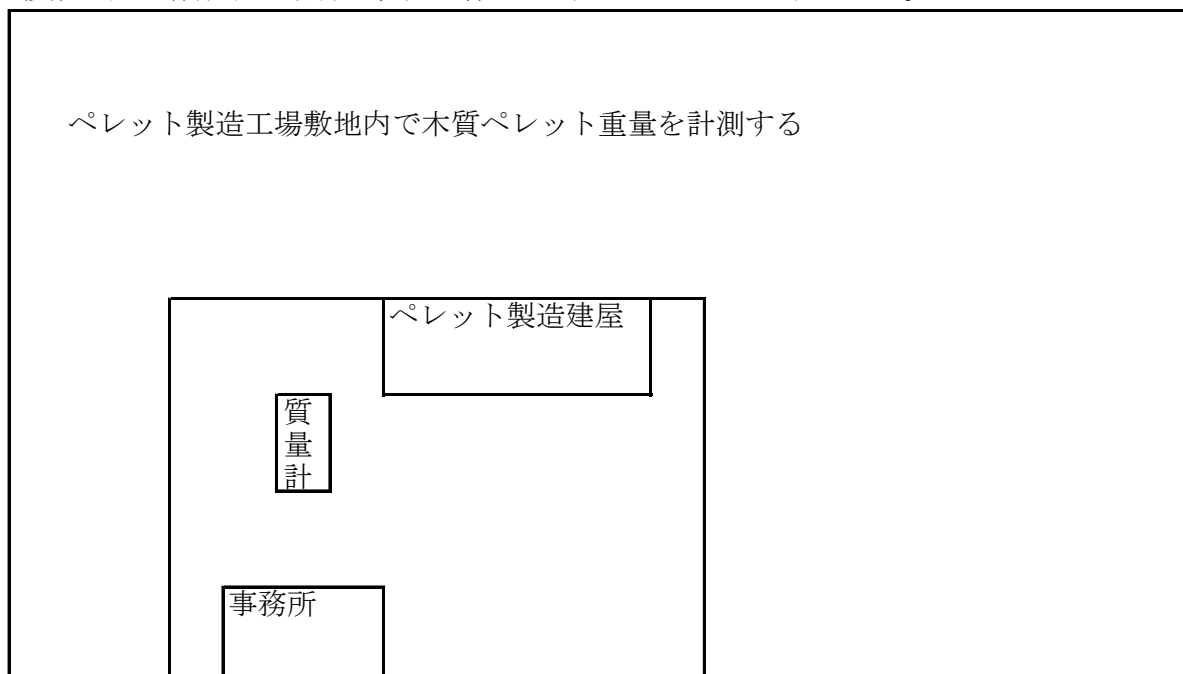
#### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

### （2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。





### A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量
<p>(推定・概算方法)</p> <p>以下の①と②の合計値 ①暖房期間（10月～5月） 木質ペレット搬送用モーターの出力0.75kW×1日あたり稼働時間24時間 ②給湯のみの期間（6月～9月） 木質ペレット搬送用モーターの出力0.75kW×1日あたり稼働時間9時間</p> <p>②の期間（6月～9月）の稼働時間は、入浴時間9：00～11：00、14：00～16：30に湯張り時間を含めて、8：00～17：00の9時間とする。</p> <p>柏風園の事務員が給湯のみの稼働期間（暖房利用していない期間）を記録し、施設の入浴時間の規定を確認する</p> <p>(モニタリングポイント)</p>	

モニタリング項目	
----------	--

(推定・概算方法)

(モニタリングポイント)

#### A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目		